

## 第 16 回 サテライト・サービス番組審議会議事録概要

---

### 1. 開催日時

令和 3 年 1 月 29 日開催予定であったが新型コロナウイルス感染拡大予防の為、審議は文章による意見交換で行なった。

### 2. 参加者

委員長: 吉岡忍

委員: 竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、砂川浩慶、宮崎美紀子、笹田佳宏

株式会社サテライト・サービス: 加藤浩輔、岡崎洋三、福本洋、藤沼聡

株式会社フジテレビジョン: 永竹里早、岡本栄史

株式会社スペースシャワーネットワーク: 藤島克之、佐藤優子、西村和晃

### 3. 議題

- 1) 『上原ひろみ”SAVE LIVE MUSIC”ライブ&ドキュメンタリー』 スペースシャワーTV で放送
- 2) 『純喫茶に恋をして』 第9話 フジテレビ TWO で放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

#### 1) 『上原ひろみ”SAVE LIVE MUSIC”ライブ&ドキュメンタリー』

- ・ ライブ映像は見応えがあった。何よりもコロナ禍という未曾有の事態にアーティストが何を思い、悩み、どう行動したのか記録したことに意義がある。
- ・ 番組全体に音楽への愛が感じられる素敵な番組であった。監督の川口潤氏の手練れの技、暖かい鈴木京香さんのナレーションもよかった。
- ・ 演出へのこだわり、上原ひとみさんの思い、繊細かつ力強い演奏、スタッフへのインタビューという構成も良いバランスであった。
- ・ ライブハウスの廃業数やライブの中止数等に全く触れることなく、皆で考え話し合っって開催したライブを見せるという手法で、逆にどれほどアーティストやスタッフたちが苦悩し苦勞したかを強く感じた。非常に大きなダメージを受けているエンタメ業界を勇気づける番組。
- ・ 上原ひろみの JAZZ や JAZZ クラブや仲間への愛、アクションを起こす勇気と熱意を感じた。彼女のこだわり、意欲、細かな配慮、自己主張と克己心といったことが現れていて、リアルなステージを舞

台とする JAZZ ピアニストとしての「プロフェッショナリズム」を感じた。

- ・ 上原はスタッフの重要性を何度も発言しているが、個々に技量を持った優秀なスタッフが役割をこなしてこそ上原の才能が生きている。視聴者としては公演中に大きなアクシデントあった方が面白いのにと無責任に思うが、そんなことが起こらないメンバーの結束力を感じた。
- ・ ピアノ以上に上原さんの言葉の表現力に魅せられた。アーティストならではの表現力に思わず心とんだ。
- ・ 上原ひろみがこのチャレンジをする時に、そこに密着してジャズアーティストの葛藤を描くという企画性に敬意を表したい
- ・ 音が素晴らしい。最高の状態で音を録っている。さすが音楽専門チャンネルのスペースシャワーだと心から思った。
- ・ 「空気感を撮る」という一番難しい事に挑戦しそれを見事に達成していた。
- ・ カメラ映像だから追える指の動きや顔の表情、配信だからわかる靴に描いたメッセージ等の工夫があった。上原のピアノ演奏が素晴らしく、その分、特にソロ演奏はもっと見たかった。
- ・ ドキュメンタリー部分に関しては、上原がこの公演プログラムや選曲に込める思いも聞きたかった。また本人インタビューだけではなく、本人やスタッフの日常や仕事への思いがわかるシーン等も見たい。
- ・ 実際の観客の満足感や高揚感をもう少し伝え、加えてコロナ収束後の世界を具体的に予見してみることができたら、作品の完成度はさらに高くなったのでは？と感じた。
- ・ 音楽専門チャンネルとしての未来の使命を全く表現出来ていないのでは無いかと感じた。誰に何を伝えたいのか？仮にドキュメンタリー「コロナ禍の Jazz」ならもっとその現実を多角的に掘り下げるべきだし、1アーティストに限定するのならよりライブを軸にした番組にするべきであると思う。
- ・ コロナ禍で苦悩する私を含む同業者が立たされている現実を代表するコンテンツとは、残念ながら言い難い。
- ・ 二度目の緊急事態宣言でライブ公演延期が相次いでいる中、これからも音楽専門チャンネルならではの切り口で、コロナ禍を音楽はどう生き抜いていくのかを記録してほしい。

※委員からの意見に対し制作サイドから(スペースシャワーネットワーク 西村和晃)

**【質問】**

演奏シーンが短い。見る人は相当な音楽ファンなのでもう少し演奏シーンがないと満足できないのでは？

**【回答】**

本番組は「上原ひろみさんご本人や公演を支えたスタッフがどのような想いで今回の取り組みを企画し実行したのかを伝えること」を主な目的として制作しておりますので、今回のような構成とさせて頂きました。

【質問】

感染防止のためにスタッフにPCR検査を受けさせた等、並々ならぬ努力があったと思うが、何か感染防止のための秘策があったのか？

【回答】

特に特別な施策といったものはなく、アーティスト・スタッフ・お客様それぞれが高い意識をもって感染防止対策を行いました。

【質問】

最初が「もうそろそろ喋ってもいいかしら？」という人格を持ったナレーションなので、誰がナレーターか視聴者は気になるが、その鈴木京香さんの表記が最後のみだったその意図は？

【回答】

ナレーションを鈴木京香さんにオファーした際、「主演はあくまでも上原ひろみさんであり、私は番組を支える存在でありたい」とご自身のお名前が過度に前面に出ることは避けたい、というご意向でした。それを反映し、今回のような演出とさせて頂きました。

## 2) 『純喫茶に恋をして』 第9話

- ・ 若者が大人になって行く貴重で大事な時間をそこで過ごし体験させて貰う場所「サテン」。そんな「サテン」が日本独自の大衆文化としてこれからも人々に必要とされ残って行く、と確信させられた番組。
- ・ コロナ禍で多くの国民に疲労感・閉塞感がある中、知る人には懐かしく平成生まれには新鮮な「昭和ノスタルジー」に癒しを求めるこの番組は、多くの人に訴求する優れたコンテンツだと思う。
- ・ 展開が同じだからこそ中毒性が高く、「男はつらいよ」「孤独のグルメ」等の名作へのオマージュが素敵。
- ・ 主人公の妄想と現実のギャップ、交差しているストーリーがとても面白かった。
- ・ 脚本家の方が素晴らしいのか、科白が秀逸。
- ・ 主題歌のブルージーなボーカルが主人公の心象風景に非常にマッチしている。テーマソング使いの巧者フジテレビらしい演出だな、と思った。
- ・ シンプルな制約された設定の中で精一杯頑張っている。番組間の短い時間を埋める試みとして、その意気込みは買いたい。
- ・ 極めて特殊な漫画家と担当編集者の世界、出版界の実情と才能ある作家の複雑な内面と心象風景を見事に映し出している。一夜明けたら「先生」と崇め奉られる日が突然やって来る、そんなシンデレラストーリーの裏側を怖いくらいに映し出した作品。
- ・ 純喫茶の紹介、ドラマの展開、いずれにおいても中途半端な感じがして、いまひとつ楽しむことができなかった。

- ・ 主人公に感情移入ができず、かといってあれこれ考えずにとりあえず面白いストーリーや設定が用意されているわけでもない、という印象だった。
- ・ ストーリーがおしなべて予想の範囲内。的外れな妄想がドラマの肝なのだから、もっと大胆に視聴者を裏切ってほしい。
- ・ 純喫茶というテーマはグルメ情報番組としては着眼点も情報性も申し分ないが、ドラマが正直面白くない。主人公の妄想はあまりにも男性目線で女性は共感できない。
- ・ 男性目線の手法に疑問。主人公に女性を配し、各店のメニューの特徴、マスターのこだわり・歴史などをフォーカスした方が良いのではと思った。
- ・ 喫茶店の雰囲気はきちんと伝わってくるが、女性がターゲットならばスイーツをもう少しきちんと紹介した方が良い。
- ・ 番組尺 17 分という短い時間にしては情報が盛り沢山なので、構成をシンプルにした方が良い。
- ・ 人生を発見していく主人公を描くことが大事。そんな人生の瞬間を切り取った映像作品を、失敗を恐れず長く作り続けていただきたい。

※委員からの意見に対し制作サイドから(フジテレビジョン 永竹里早)

**【質問】**

主人公の男性が毎回女性を品定めし勝手に恋心を抱くところは、節操がなくガツガツしていて違和感を覚えた。若い女性がターゲットというが、なぜこのような男性目線の設定にしたのか？

**【回答】**

「スイーツ」×「若い男性主人公」で女性層へのアピールを図ったことは確かです。いささか浅はかな路線であることは認めつつ、純喫茶を舞台にしたことで男性や年配層にも広く興味をお持ちいただき、第2シリーズでは若い女性にさほどこだわった作りをしていないことも事実です。ただし、フジテレビ TWO の視聴者層は 40 代以上の女性が最も多く、今後はもう少し純喫茶のスイーツを丁寧に紹介するなど女性目線を意識していきたいです。なお、主人公の女性を見る目線はあくまでも淡い妄想としての演出でしたが、同じように違和感を感じた視聴者もいたと推察しますので、以後気を付けたいと思います。

**【質問】**

グルメガイドとドラマ、この二つの要素のうちグルメガイド的な要素を強く押し出して行った方が「未知のものを知る楽しさや驚き」という点で面白いのではないか？

**【回答】**

純喫茶を舞台にすると決めた際、ぶらり旅のようなグルメバラエティも考えましたが、ミニドラマの中でさりげなくメニューを紹介していく方がオリジナリティのある作品として残っていくと考え、この形式で進めました。ドラマが面白くない話数もあるとのご指摘を受けましたので、今後はよりひねりのきいた内容の制作を目指していきます。

#### 4. 次回予定

令和3年4月中の開催を予定。議題対象番組は調整中。